

# 患話休題

かんわきゅうだい



院長  
真崎 雅和



## 補聴器をいつつける？いまでしょ！

加齢などによって聞こえの悪くなった患者さんに、「そろそろ補聴器はいかがですか？」とお話すると、一瞬怪訝<sup>けげん</sup>そうな顔をした後で大きくかぶりを振り「まだそこまでは」と答える人が殆どです。まだそこまでと言うのは「まだそれほど不自由していない」のか、またそんな年ではない」という意味でしょうか。聞こえが悪いと受診された患者さんが補聴器の話をした途端まだそんなに悪くないと答えるのはちよつと変ですよ。一般的に補聴器に対しては、多くの誤解が蔓延<sup>まんえん</sup>しているようです。

第一の誤解は、補聴器は聞こえが相当に悪くなつてからかけるもの、というイメージです。耳元で大きな声を出しても殆ど聞こえない人に補聴器をつけても会話という意味では殆ど役に立ちません。しかし現在の社会福祉法の補聴器補助はこういった方々のみに認められているので、多くは高度難聴の方が補聴器を勧められ装着しているのが現状で、はたから見ていると補聴器が役に立つという認識が得にくいと言えます。補聴器の本当の効用は、社会とコミュニケーションを頻繁<sup>ひんぱん</sup>に取る必要がある第二の誤解は、補聴器を電気屋さん(あるいは眼鏡屋さん)に勧められたものを購入し装着した

が、うるさいだけで役に立たなかつたという風評です。補聴器はボリュームの上げ下げだけで調整してもうまくはいきません。会話の音は低周波(100Hz)から高周波(10000Hz)の間の複雑な周波数の組み合わせで構成されます。聴力は周波数毎に違う上に個人差があります。また快適に聞こえる音量と、うるさいと感じる音量は周波数毎、個人毎に異なります。つまり補聴器は個人毎にチューニングしないとうまく合わないのです。

第三の誤解は、そうやってチューニングしても、自分が欲していたように音がクリアに聞こえないので邪魔になって結局タンスの肥やしになってしまつてい風評です。補聴器はメガネと違って、合つたものを装着した途端聴力の良かつた頃と同じように聞こえるということはありません。あくまでも器械を通して増幅された音なので、雑音の混入が避けられませ(ンシャーとかシ)。また、もともと聴覚機能が落ちているので大きくしただけでは判別が改善するわけではありません。足が悪ければ補装具をつけて訓練(リハビリ)します。コミュニケーション改善の補助具としての補聴器もやはり訓練(リハビリ)が必要で、す。そうやってつと補聴器が役に立つのです。



診察時間が近づいたことをお知らせする

メールサービスを  
約30分前

ご利用ください。ご希望の方はメルアドを受付へ!!



急患 随時受付

診療時間	月	火	水	木	金	土	日祝
午前 8:30~12:00	○	○	○	○	○	○	休診
午後 3:00~6:30	○	○	○	休診	○	△ 3:00~4:00	休診

真崎耳鼻咽喉科医院

TEL.018-845-0234 FAX.018-847-1321 秋田市土崎港中央6-8-3